

## 令和5年度第1回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べる事ができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 令和5年7月20日（木） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中9名出席 美術館職員7名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 <敬称略50音順>  
浅野智子、伊東義晃（会長）、大石朋生（副会長）  
坂井寿香、千葉幸恵、津辻としえ、彦野優佳、村中一徳、両瀬 涉
- 5 議 事 (1) 令和4年度（2022年度）事業実施状況について  
(2) 令和4年度（2022年度）道立美術館評価について  
(3) 令和5年度（2023年度）事業運営計画について  
(4) その他

### ◎議事録（抄）

議事に入る前に館長挨拶を行い、その後、第1展示室「こころ・おどる・ものがたり」展及び第2展示室で「遠藤享展」を観覧。

観覧後、会長の議事進行により、上記の議事について各委員に諮った。

### <議事についての意見等>

\* 事務局より令和4年度の展覧会等の実施状況（美術館評価結果を含む）、令和5年度の事業予定等を説明（展覧会、教育普及活動については映像でも紹介）。事務局からの報告、説明に対して、美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて、協議委員を通して意見や感想等を頂く。

- オンラインアート教室は良いと思う。コロナ禍など、その時の状況に応じて活動の対応を変えているのは素晴らしい。
- インスタグラムも始めたとのことで、更に色々な方に来館していただく機会が増えるのではないだろうか。
- 勤務する学校が離れているところにあるので、オンラインアート教室を活用したい。
- 来場者に、撮影可能な作品をどんどん写真撮影していただきSNSに投稿してもらおうと良い。撮影しても良いものは良いと解れば、それが宣伝に繋がると思う。

- 美術館はInstagramやTwitterなど頑張っているが、旭川に美術館があることや、旭川美術館がある場所を知らない人に知ってもらうためには、これ以上どうしたらよいか。
- 写真を撮れることは、とても良いと思う。SNS等で旭川美術館を繋げていけます。
- 「旭川の美術 100 年」は見応えがあり良かったが、地元のことなのに観覧者が少なかった。もっと招待券を配って関係者を呼んだり、色々なところにアクセスするなどの工夫をしていただけたら良いと思う。
- 展覧会の題名だけでは内容が伝わりづらい場合がある。内容がわかりやすい題名にすると、お客さんがより増えるのではないかな。
- 展覧会では、写真撮影が駄目な場所ではなく、写真撮影をしても良い場所をPRし、さらにSNSに投稿する際には「#〇〇展」などハッシュタグをつけて投稿してもらえば、お客様にも宣伝を手伝っていただくことができると思った。
- 現在は「自分大好き」な人が多いのではないかなと思う。難しいと思うが、例えば作品をお客さんに模写してもらい、その作品が美術館のSNSなどに掲載されると、掲載されたことが嬉しく、その美術館に対して印象が良くなり、また来館していただけるのではないだろうか。
- 難しいことだと思うが、展覧会が始まる前に、教育委員会がその展覧会のブームを起こすことはできないだろうか、皆でブームや流行りを起こしたい。
- 前回の協議会后、大型バナーやSNS、オンラインアート教室等、努力されていて動員数に繋がっているのを目の当たりにしている。非常に努力され、ありがたいと思っている。
- チケットを見たときに、「竹久夢二展」のように所有感があると良いと思う。小さいアイコンとしてファンの心をくすぐる。  
また、美術館の窓に大型バナーを設置しているが、外側にアピールしこの展覧会に行きたいなと思えた。
- 美術館に来てもらう入口として、特に親子に来ていただくことは、将来に亘って美術館を長く継続的に維持していくための、未来への投資になる。
- 旭川は地元を愛する気持ちが強い。  
「蔵出し！木彫の味わい」が予定されている。「竹久夢二展」のようなアイコンになるものをつくり、旭川地域の美術作品に関連付けし絵柄や図版をとおして、地元で愛されるような仕組みが作れば良い流れになるのではないかな。所蔵作品展にも足を運んでもらう仕組み作りが必要になってきた。